

# 明科町史 上巻 自然・歴史編 目次

口 絵

発刊のことば

例 言

執筆分担

## 第一編 自然

### 第一章 総論

#### 第一節 位置

一 経緯度上の位置	三
二 高距的位置	九
三 気候的位置	一〇
第二節 形状・面積	五三
第三節 境界	三

### 第二章 地形・地質

#### 第一節 地形

一 概説	一
二 扉川	二
三 高瀬川	三
四 会田川	四
五 潮沢川	五
六 前川	六
七 内川（内川農業水路）	七
第二節 地質の概観	八

明科町長 宮下 泉一

一 概説

二 フォッサマグナの形成

三 北部フォッサマグナ地域の移り変り

四

一 構造の発達

第三節 西部山地

五

一 地形

二 地質

三 沖積地

第四節 東部山地

六

一 芥子原主山地

二 長峰山地

三 潮沢山地

四 生坂・岩殿山地

第五節 会田・西条山地

七

第六節 明科町付近の化石

八

一 動物化石

二 軟体動物化石

三 植物化石・花粉化石および珪化木

四 化石よりみた古气候

一 概説

二 地質

三 地質構造

第六節 構造の発達

一 概説

二 構造の発達

第七節 地すべり

九

一 地すべりの原因

二 地すべりの分類

三 地すべり災害とその対策

四 明科町の地すべり

五 明科町の地すべり

六 明科町の地すべり

七 明科町の地すべり

八 明科町の地すべり

第八節 明科町付近の化石

十

一 動物化石

二 軟体動物化石

三 植物化石・花粉化石および珪化木

四 化石よりみた古气候

一 概説

二 地質

三 地質構造

## 第二編 歷史

### 第一章 考古

はじめに

一 支配者の時代

三七

二 古代明科の支配者

三九

第一節 明科町と埋蔵文化財

三四

一 明科町の遺跡

三四

二 調査・研究のあゆみ

三四

三 埋蔵文化財の保護

三四

第二節 先土器時代

三四

石器文化の展開

三四

第三節 縄文時代

三四

一 縄文文化の展開

三四

二 明科の縄文時代遺跡

三四

三 縄文時代の生活

三四

第四節 弥生時代

三四

一 弥生文化の展開

三四

二 明科の弥生時代遺跡

三四

三 弥生時代の生活

三四

### 第五節 古墳時代

三七

一 支配者の時代

三七

二 古代明科の支配者

三九

第六節 奈良・平安時代

三三

一 古代国家の形成

三三

二 奈良・平安時代の明科

三三

第七節 中世の出土遺物

三三

### 第二章 古代

#### 総論

三三

#### 第一節 郡の所属

三七

一 安曇郡とその範囲

三八

二 更級郡とその範囲

三九

三 筑摩郡とその範囲

四〇

#### 第二節 郷の所属とその範囲

四六

一 前科郷

四六

二 麻績郷

四七

第三節 古氏族と古墳分布	四六
一 古氏族	四六
二 古墳の分布	四三
第四節 古社寺	四七
一 古社	四七
二 古寺	四三
第五節 古代の交通路	四八
一 東山道	四八
二 地方への道	四七
第六節 郷の分解から国衙領と庄園とに分化	四五
一 国衙領	四五
二 庄園	四八
第七節 郡境界の変遷	四五
第三章 中世	
第一節 概説	四五
第二節 国衙領と庄園	四五
第九節 城館跡	
一 穂高神社造営に参加の郷村	五二
二 諏訪神社の造営に参加の郷村	五三
第三節 海野氏の侵出	五三
一 塔原氏	五三
二 光氏	五〇
三 田沢氏と花村氏	五〇
四 大草(足)氏	五〇
第四節 仁科氏族の侵出	五六
一 丸山氏	五六
第五節 甲斐武田氏の侵攻と氏族の動向	五六
第六節 御祓くばり日記	五六
第七節 小笠原氏の再興	五六
第八節 郷村の神社造営への奉仕	五六
一 穂高神社造営に参加の郷村	五二
二 諏訪神社の造営に参加の郷村	五三
第三節 国衙領内の派生と国衙領の消滅	五六
一 国衙領内岐郷内村々と国衙領の消滅	五六
二 庄園大穴庄園の村々の派生と庄園の消滅	五六
三 前見庄内の村々派生と庄園の消滅	五六
四 前見庄内の村々派生と庄園の消滅	五六

一 関係した地名	五七六
二 個々の城館跡	五八

九 家数や人口の推移	五九
------------	----

六七四
-----

## 第四章 近世

第一節 領主と村	一 転々と変った領主	毛三
	二 村の発生・沿革	毛三
	三 村の役人	毛三
	四 五人組の制度	毛三
	五 鉄砲改	毛三
	六 御触書・御条目	毛三
	七 村定め	毛三
	八 領主の治績と農民	毛三
第二節 戸口	毛三	毛三
第三節 土地制度	一 田畠の開発と検地	六七七
	二 山林	六七七
第四節 貢租・課役	一 本税	七三
	二 雜税	七三
	三 松本藩の年貢免状	七三
	四 幕府領の免状	七三
	五 松本藩の年貢払通	七三
	六 納高の変遷	七三
	七 年貢の軽減願	七三
	八 課役	七三
第五節 川除普請出入	一 光村・塔原村と重柳村方面との争論	八六
	二 塔原村・明科村と押野村争論	八六
	三 潮方面と塩川原方面の川除・郡村境争	八六
	四 中村と小立野村との川除出入	八六
第六節 産業	一 農作物と農業技術	八五
	二 妻の年令と子供の數	八五
	三 奉公人	八五

## 二 商業的農業

三 林産物

四 牛馬

五 水産

## 第七節 用水堰

一 虻川の用水

二 会田川の用水

三 高瀬川の用水

四 壇普請

## 第八節 交通・運輸

一 道路概説

二 川東の道

三 川西の道

四 明科村より他所への里程

五 旅

六 運輸

## 第九節 文化

一 寺子屋

二 俳諧

三 建築・絵画・武道・相撲

## 第一〇節 宗教

一 神社

二 寺院

三 諸堂

四 修驗

五 講の信仰

## 第一一節 災害・騒動

一 概説

二 元禄の災害、凶作

三 正徳四年八月の風水害

四 正徳五年の地すべり

五 正徳五年八月の水害

六 享保の凶作・災害

七 明和の大旱魃

八 天明の飢饉

九 文化五年の小芹の地すべり

一〇 天保の飢饉

一一 弘化四年上押野山崩れ

一二 慶応四年押野の災害

一三 病氣灾害

一四 貞享騒動

一五 会田騒動の余波

## 第一二節 日常生活

一 着物	一一九	一三三 慶安三年中村検地帳
二 食べ物	一〇九	一四四 御用金・御頼金
三 住居	一〇八	一四五 利息の高い借金証文や質入証文
四 日常生活と信仰	一〇七	一五五 音信帳に見られる金品
五 かけ占い	一〇六	一五六 娘の盗み出し
六 組手代・村役人の仕事	一〇五	一五七 奉公人の請状
七 貨幣や相場算用	一〇四	一五八 囬作と盜難
八 算法書	一〇三	一五九 年号の改め通知
九 無尽	一〇二	一六〇 豊因により変動する稻相場・貨幣の換算と相場
一〇 薬・医者	一〇一	一六一 諸證文の読み方
一一 蔓込	一〇〇	一六二 あとがき
一二 死人の取扱い	九九	
一三 重罪人の家族の処分	九八	
一四 女の名前	九七	
一五 孝婦孝子などの表彰	九六	
一六 城中への年礼	九五	
一七 農民の階層	九四	
一八 日用取(日雇)	九三	
一九 地主と小作の村定め	九二	
二〇 座頭・ごぜのねだり	九一	
二 農村商人	九〇	
三 萩原村の田畠や石高の増加	八九	

## 附録(別袋)

明科町史編纂関係者名簿

明科町付近の地質図

明科町を中心とした隣接町村内郷村沿革表  
題字 明科町長 宮下 泉一